新世紀のキャンパス
Campus of New Century

ヤマザキ学園大学 2号館

奥から教会を思わせる1号館と2号館。南仏プロヴァンスをイメージした南大沢の街並みによく似合う。

エントランスを入ると，動物画で知られる鈴木勝之氏の絵画が迎えてくれる。

学校法人ヤマザキ学園は2010年4月，日本初の動物看護の大学であるヤマザキ学園大学を開学。短大のある南大沢キャンパスに今年3月，2号館を竣工した。

創始者の山﨑良寿は，学徒出陣の経験から生命の教育と女子の新たな職業分野の確立を志し，渋谷区松濤にペットスペシャリスト養成機関を創立。動物のケアからスタートし，動物看護学へ学問分野を開拓するうちに，“いずれは大学に”との想いをもつ。「大学構想は父から受け継いだ遺志。まず専修学校をつくり，短大を経て大学へと，ここ10年間は4年制大学の準備に力を注いできた」と語るのは，山﨑 薫理事長だ。

かつて動物とは，一般的に牛や豚などの産業動物を指し，獣医学も産業動物のためのものだった。しかし2000年の動物愛護法改正で，動物は命あるものと認められ，家族の一員である“コンパニオンアニマル（伴侶動物）”の考えも広まった。こうした追い風を受け，2004年に八王子市南大沢にヤマザキ動物看護短期大学（3年制）を開学。周辺大学と単位互換を行うことが可能な八王子市は，創始者の唱える“大学の壁を取り払った大学”を実現できる場所だったともいう。動物医学は今後ますます高度化・専門分化し，それに対応する高度な知識や技能を備える動物看護師は，必ずニーズが高まるはず。将来のリーダーとなる人材を養成するには，やはり動物看護学を学問として教育研究できる“大学”にしなければ。動物業界のパイオニアが，大学を開学するまでに，実に43年を要した。

カリキュラムは，1年次から4年間，動物看護，臨床検査，グルーミングなどの実習を行いながら，動物看護の基礎・応用となる生理学，病理学，機能形態学などを学ぶ。実習には，3500頭以上登録されている30犬種以上のモデル犬を飼い主から預かる「モデル犬制度」を採用。多種多様な犬種を扱えるメリットがあり，丁寧なケアが飼い主からも好評の制度だ。3年次からは「動物看護」「動物応用」「動物介在福祉」の3コースに分かれるが，他のコースの科目も履修できる緩やかな選択制となる。

学生は，1年次を渋谷区松濤で，2～4年次を南大沢で学ぶ。専門学校で培った経験から，松濤のモデル犬はケアを受けることに慣れており，動物を飼ったことのない学生でも，安心して実習を行える体制が整っているためだ。一方南大沢は，大学の目的でもある教育研究を行う環境を整えている。

今回竣工した2号館の主な施設は，1Fに「就職支援ルーム」「カウンセリングルーム」，カフェ経営の実習を行えるドッグカフェ「実習室」を新設。2Fには外科手術の指導を行う「動物臨床看護実習室」，血液や尿，細胞などの検体検査を行う「臨床検査実習室」を設けた。3～4Fには，300人収容の大講義室である「セントヨハネホール」「研究室」「中講義室」「多目的自習室」などを設置している。5Fには眺望の良い学生食堂「スカイダイニング」を設けた。どのフロアにも動物の絵画や版画，写真があふれ，「人間も楽しいが動物も楽しいと思える教育にしたい」との学風がうかがえる。

（取材・文／本誌 能地）

明るい木製のトーンで温かみのある階段教室「セントヨハネホール」は，学生一人ひとりの顔がよく見える。

外科用の「動物臨床看護実習室」では，モデル犬を仰向けに固定したり，体重を測ったりできる専門的な手術台を使用する。

学生がじっくりと検体検査の手順や取扱いを学べるよう，一人1台の顕微鏡を備えた「臨床検査実習室」。

２号館内にある「中講義室」は，窓から光があふれる明るい空間。

全面ガラス張りで眺望もよく，カラフルな椅子が遊び心を感じさせる最上階の学生食堂「スカイダイニング」。

将来，独立開業を目指す学生の学びの場となるドッグカフェ「実習室」。肥満用フードなど栄養管理のメニューを考案するキッチンも備える。

この記事は参考になりましたか？ご意見をお聞かせください
※ご使用の環境によってはセキュリティ警告が表示される場合がございます
ご意見・ご感想フォームを開く